

地域包括ケア病棟の取り組み

住み慣れた地域への在宅復帰支援

Recuperation ward

「ときどき入院、
ほぼ在宅」
Team Shida

地域包括ケア病床

地域包括ケア病床は**最長60日以内での入院が可能**な「在宅復帰支援のための病床」です。

病床の機能

- * 在宅、急性期病院からの受け入れ
- * レスパイトの受け入れ
(介護をしている家族が一時的に介護から解放され、休息をとられるようにする支援)
- * 在宅復帰支援



在宅復帰の糸口を一緒に考えます



地域と医療の架け橋

① 在宅、急性期病院からの受け入れ機能		② 介護者が休息をとれるようにする支援		③ 在宅での看取りのサポート	
<p>①自宅転倒し、骨折 急性期病院へ入院</p> <p>あいたた一助けてえ〜</p>	<p>②治療を終え、地域包括ケア病棟へ転院</p> <p>リハビリ</p> <p>後遺症を覚えてください。</p> <p>家庭訪問</p>	<p>①自宅での介護</p> <p>介護に家事に子育て、関わら。自分の時間もないな〜</p>	<p>②地域包括ケア病棟へ入院</p> <p>家族に代わって生活の補助</p>	<p>①病気の告知、治療</p> <p>治療を始めるので入院してください</p> <p>家を離れるのは難いな〜</p> <p>はい〜</p>	<p>②終末期にて地域包括ケア病棟へ転院</p> <p>患者・家族の希望</p> <p>驚かないから、お父さんの願いは叶えたいけど、どうしていいかわからない。家族をどうしたらいいか。</p> <p>家が寂しいです。家に帰りたいよ。</p>
<p>③在宅生活への準備</p> <p>商業指導 サービスの検討 家庭の調整</p> <p>元気になったけど、ばーさんと二人暮らしで、家で生活できるかな？</p> <p>一緒に、お家の環境調整やサービス利用について考えましょう！</p>	<p>④在宅へ退院</p> <p>送迎サービス</p> <p>送迎 お家でどうします</p> <p>家で生活できるようにするために、外乗設備が設置される。</p>	<p>③家族のリフレッシュ</p> <p>自分の時間が持て、母も心も楽になりました。</p>	<p>④在宅へ退院</p> <p>相談できる所があって、良かった。また、介護頑張ろう！</p> <p>楽しく介護</p>	<p>③在宅生活への準備</p> <p>介護指導の準備、実施、介護指導の振り返り、患者、家族指導のサービスの検討 家庭の調整</p> <p>話聞診療や訪問看護にサポートを依頼して、すぐに病院と連絡がとれる体制を構築しましょう。</p>	<p>④在宅へ退院</p> <p>訪問診療、訪問看護・介護</p> <p>家で家族と過ごせて、毎日楽しいです。</p> <p>多職種での支援</p> <p>家に連れて来て、お父さんの病室に導入できなかった。お父さんでいいから早く帰ってほしいです。安心しました。</p>

* 安全な在宅療養の継続のため、国が定める状態の患者及びその家族に退院後の指導訪問も行っています。

療養病床

医療療養病床は、急性期医療の治療を終えても、引き続き医療提供の必要度が高く、病院での療養が継続的に必要な患者様を対象にご利用頂く病床です。

このような慢性期の患者さまに対し、厚生労働省の定めた規定に従い、医療の必要度に応じた医療区分およびADL自立度(日常生活自立度)の観点から考えられたADL区分による包括評価をする事となっております。

医療療養病床は、主に医療区分2〜3などの医療必要度の高い患者さまを担当することが期待されている病床です。

医療区分とは、入院されている患者様をその病状により3段階に分類するものであり患者様の状態を把握するためのものです。

医療区分2

- ・筋ジストロフィー、多発性硬化症、パーキンソン病関連疾患、その他難病
- ・脊髄損傷、慢性閉塞性肺炎患者、肺炎
- ・尿路感染症、疼痛コントロールが必要な悪性腫瘍
- ・気管切開・気管内挿管のケア、頻回の血糖検査、創傷処置、喀痰吸引(8回以上/日)など

医療区分3

- ・常時管理が必要な状態、24時間持続点滴
- ・中心静脈栄養、人工呼吸器、ドレーン法、胸・腹腔洗浄、発熱を伴う気管切開、気管内挿管、酸素療法、感染隔離室における管理



	平成28年度	在宅復帰率	平均在院日数
地域包括ケア病床		93.2%	27日
療養病床		76.0%	98.3日

～地域に求められ、地域に貢献できる病棟を目指します～

地域包括ケア病棟の取り組み・住み慣れた地域への在宅復帰支援